

考古学研究室報告

第 35 集

I ナガラ原東貝塚 2

II 西原 F 遺跡 4

1999 年考古学研究室の足跡

2 0 0 0

熊本大学文学部考古学研究室

— 表紙写真 —

(表) ナガラ原東貝塚遺景 (城山より)

(裏) 西原F遺跡より熊本市内をのぞむ

序 文

本書には、沖縄県ナガラ原東貝塚と熊本県西原F遺跡についての発掘調査報告を掲載した。熊本大学文学部考古学研究室が行ういくつかの発掘調査のうちの主要な二つについてである。

ナガラ原東貝塚の調査は昨年度に引き続いて今年度で2回目。昨年度のトレンチ調査でようやく遺跡の様子があつてきたので、今年度は平面的に発掘することに主眼をおいた。貝の廃棄単位を調べるために貝合わせを行うというこれまでにない試みも実施したが、意外にペアとなる貝殻が少ない。次年度以降にもこれを継続する予定だが、このささやかな試みは、どのような人々の行動パターンを描き出してくれるのだろうか。

西原F遺跡の調査は、熊本大学埋蔵文化財調査室の小畑弘己氏を中心として行われている。今年度は第4次調査。AT下層において礫群の存在が確認された。これを含め、今までに蓄積されてきた多くの成果を総括する作業にそろそろ着手されるという。今後が非常に楽しみである。

本書の作成には大学院生の谷直子さんを中心に研究室の2・3年生がおもにたずさわった。執筆者をみていただくとお分かりになると思うが、そのほとんどが3年生である。熊本大学に赴任した昨年度はこのシステムにしばし戸惑ったが、この作業を経る前と後の彼らの変化をみることはとても楽しい。また本書では、報告書としての体裁を整えることにも神経を注いだ。限られた期間と予算のなかでどれくらいいい報告書を作ることができるのか。今後もさまざまな模索をしていくつもりであるが、お気づきの点があればご指導をお願いしたいと思う。

熊本大学文学部考古学研究室の活動は、多くの方々のご協力によって支えられている。ここで報告した発掘調査においても地権者や地元住民の方々、地元自治体、さらには遺跡を訪れて下さる研究者の方々からさまざまなご支援とご教示をいただいた。松本幡郎、樋泉岳二、黒住耐二、高宮広土各氏には、お忙しいなか、ナガラ原東貝塚の報告に報文をお寄せいただいた。また、財団法人高梨学術奨励基金による研究助成金を、ナガラ原東貝塚の調査経費の一部として使用させていただいた。以上のお世話になったすべての方々に、深く感謝申し上げたい。

2000年3月

杉井 健

I ナガラ原東貝塚2

例 言

- 本編は熊本大学文学部考古学研究室による沖縄県国頭郡伊江村字川平1061-1・1062-1・1071-1番地所在のナガラ原東貝塚の調査報告である。
- 発掘は実習調査として研究室が起案し、伊江村教育委員会・沖縄県教育庁文化課の協力を得て実施された。
- 調査は1999年7月12日から26日までの15日間実施した。
- 脊椎動物、軟体動物、植物遺存体の鑑定、分析については順に早稲田大学樋泉岳二、千葉県立中央博物館黒住耐二、札幌大学高宮広士の各先生にお願いした。
- 荒木隆宏担当の魚骨の鑑定指導は早稲田大学樋泉岳二先生に、獣骨の鑑定指導は鹿児島大学農学部西中川駿先生、同進沼浩氏にお願いした。
- 石材および鉾物の鑑定は元熊本大学理学部松本幡郎先生にお願いした。
- 調査期間中、筑波大学 M.Hudson 先生の指導を受けた。
- 本編の編集は谷直子が行ない、執筆分担については執筆者名を各文末に示した。
- 本編におけるレベル高はすべて海拔をあらわし、方位は真北をあらわす。
- 本編の挿図と図版の遺物番号は対応する。
- 調査参加者・整理作業者は以下の通りである。
 - 甲元真之 木下尚子 杉井 健 (以上教官)
 - 亀田 学 谷 直子 (以上大学院1年生)
 - 新里亮人 中川毅人 村上浩明 山口大介 (以上学部4年生)
 - 荒木隆宏 河合章行 木村龍生 京極佳子 熊本茂仁 高橋久美 竹中克繁 橋口剛士
 - 松根恭子 丸山 愛 劉 軍 (以上学部3年生)
 - 内田美穂 菊池義明 坂口三輝子 坂元紀乃 田代理恵 檀佳克 丸地見典 三浦和之
 - 満留花子 宮田安利子 宮本千恵子 安武寛文 矢羽田幸宏 (以上学部2年生)
 - 知念正彦 (筑波大学学部4年生) 久高糸子 (筑波大学学部1年生)

本文目次

一 位置と環境	1
二 調査の経過	4
三 調査の成果	6
1. 層序	6
2. 貝塚の形成	9
3. 出土遺物	11
(1) 土器	11
(2) 石器	17
(3) 貝製品	21
(4) 自然遺物	24
四 自然科学的分析	29
1. 伊江島の地質	29
2. ナガラ原東貝塚の水洗選別試料より検出された脊椎動物遺体（第2報）	35
3. 1999年のナガラ原東貝塚調査の食用貝類遺存体（予報）	45
4. ナガラ原東貝塚出土の植物遺体（1999年度）	55
五 まとめ	63

挿図目次

第1図 伊江島の地形および遺跡分布図	2
第2図 遺跡周辺地勢図	3
第3図 遺跡周辺地形図および調査区位置図	5
第4図 調査区平面図およびコラムサンプリング位置図	5
第5図 土層断面図・調査区平面図	7・8
第6図 IV下層上半部の貝殻出土位置図	10
第7図 出土土器実測図（1）	14
第8図 出土土器実測図（2）	15
第9図 出土石器実測図（1）	18
第10図 出土石器実測図（2）	19
第11図 ナガラ原東貝塚出土有孔貝製品の重量分布	21
第12図 喜如嘉貝塚出土有孔貝製品の重量分布	21
第13図 具志原貝塚出土有孔貝製品の重量分布	21
第14図 出土貝製品実測図	23
第15図 ナガラ原東貝塚出土貝殻組成	25
第16図 シャコガイ科貝内訳	25
第17図 出土貝の生息地略図	26
第18図 殻長・殻径組成	26
第19図 伊江島周辺の海底地形図	30
第20図 伊江島北海岸スケッチ図	31
第21図 想定基盤地質図	32

第22図	地質断面図	32
第23図	琉球石灰岩の基底面	33
第24図	北1西1グリッドサンプリング地点	57
第25図	北2西1グリッドサンプリング地点	57
第26図	北3西1グリッドサンプリング地点	57
第27図	北1西1グリッドにおける植物遺体の分布	57
第28図	サンプリング風景	61
第29図	ナガラ原東貝塚出土の炭化種子	62

表目次

第1表	伊江島遺跡一覧表	2
第2表	出土土器分類・集計表	12
第3表	出土土器観察表	16
第4表	出土石器計測値一覧表	20
第5表	出土有孔貝製品計測値一覧表	22
第6表	出土貝殻分類・集計表	25
第7表	出土動物名および重量・骨片数	27
第8表	動物骨出土位置一覧表	28
第9表	ナガラ原東貝塚1999年度調査で採取した水洗選別用ブロック試料	38
第10表	ナガラ原東貝塚水洗選別用ブロック試料(1999年度)の構成	38
第11表	ナガラ原東貝塚IV層における魚骨・獣骨・貝殻の包含密度と焼骨率	39
第12表	ナガラ原東貝塚水洗試料(1999年度)より検出された脊椎動物遺体の同定結果	39-43
第13表	ナガラ原東貝塚水洗試料(1999年度)から検出された脊椎動物遺体の組成	44
第14表	沖縄県伊江島ナガラ原東貝塚から出土した貝類遺存体	48-53
第15表	ナガラ原東貝塚出土の炭化種子	60

図版目次

図版1上	ナガラ原東貝塚近景(西より)	図版4	土器(1)
中	北トレンチ東壁セクション(西より)	図版5	土器(2)
下	北2西1グリッド西壁セクション(東より)	図版6	石器
図版2上	北1西1グリッド貝出土状況(南より)	図版7上・中	貝製品
中	北2西1グリッド貝出土状況(西より)	下	自然遺物(1)
下	北3西1グリッド貝出土状況(西より)	図版8	自然遺物(2)
図版3上	調査終了時遺跡近景(南より)		
中	現地説明会		
下	シャコガイ科合弁作業風景		